

箱入り娘の夜

- わたしたちの想いを携えそびえる洞窟の家 -

1 着想 - わたしの3つの夜 -

伊是名で過ごしたある日の夜 久しぶりに帰ったある日の夜 悩みを抱えたある日の夜



「自分の暮らす日常から離れた世界で何かと向き合った時、心が軽くなる。」

「家具や生活に左右されない変わらずにそこにある空間が欲しい。」

「日常の嫌なことを忘れて、心が軽くなるような場所に行きたい。」

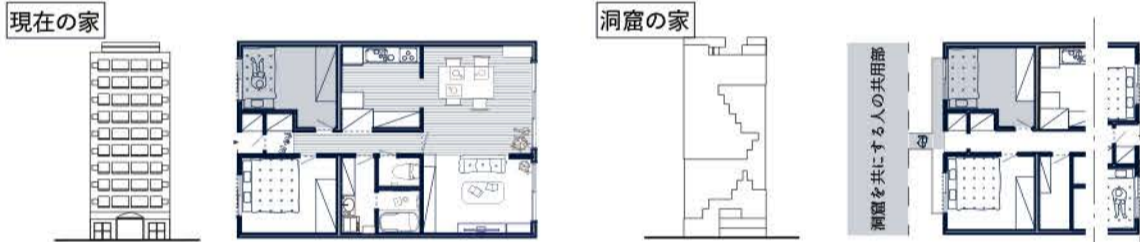
2 敷地 - 商業地域の中の高層住宅街 -



3つの夜で感じた想いを抱えている人はきっとどこにでもいて、本当は各地に点在するようにあることがいいと思っている。けど、あえて敷地を選ぶとしたら都会。都会は日常から近すぎて拠り所を見つけることが難しい。

新宿区一丁目 商業地域の中にあるマンション街の一角
敷地面積：441 m²

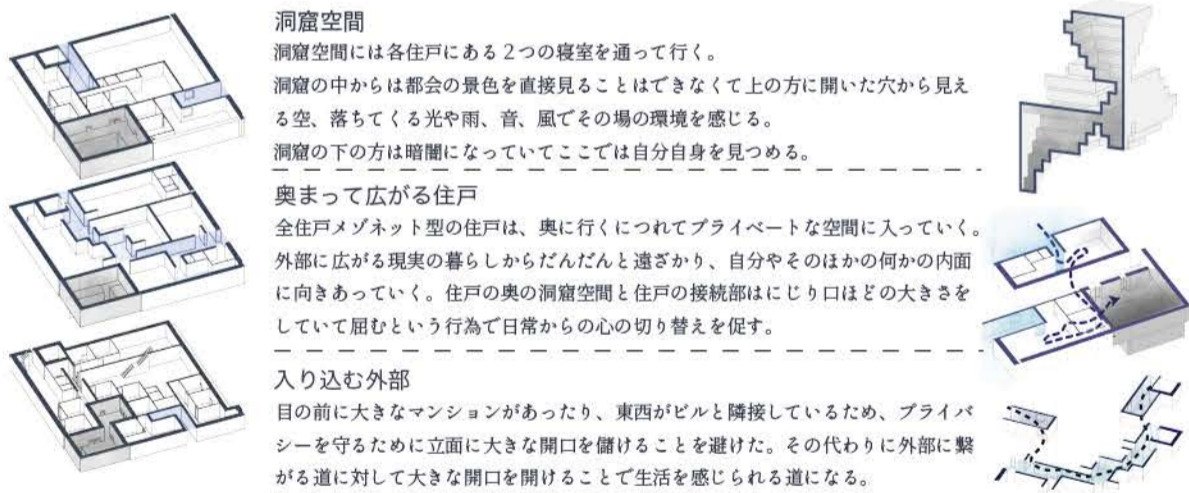
3 提案 - 奥に闇を持つ洞窟の家 -



現在の家
家の奥は行き止まっていて、自分達だけの家で夜を過ごし、朝を迎える。この家は一番落ち着ける場所のようだけれど、悩みを抱えた夜には檻の中に閉じ込められているような感覚を覚える。

洞窟の家
家の奥に続く闇の空間があって、ずっと奥に行くと誰かの家があるかもしれないし、ひらけている場所があるかもしれない。日常から離れて何かの内面に向き合う場のある家。

4 立体的に絡み合う3つの要素



洞窟空間

洞窟空間には各住戸にある2つの寝室を通過して行く。洞窟の中からは都会の景色を直接見ることはできなくて上の方に開いた穴から見える空、落ちてくる光や雨、音、風でその場の環境を感じる。洞窟の下の方は暗闇になっていてここでは自分自身を見つめる。

奥まって広がる住戸

全住戸メゾネット型の住戸は、奥に行くにつれてプライベートな空間に入っていく。外部に広がる現実の暮らしからだんだんと遠ざかり、自分やそのほかの何かの内面に向きあっていく。住戸の奥の洞窟空間と住戸の接続部はにじり口ほどの大きさをしていて屈むという行為で日常からの心の切り替えを促す。

入り込む外部

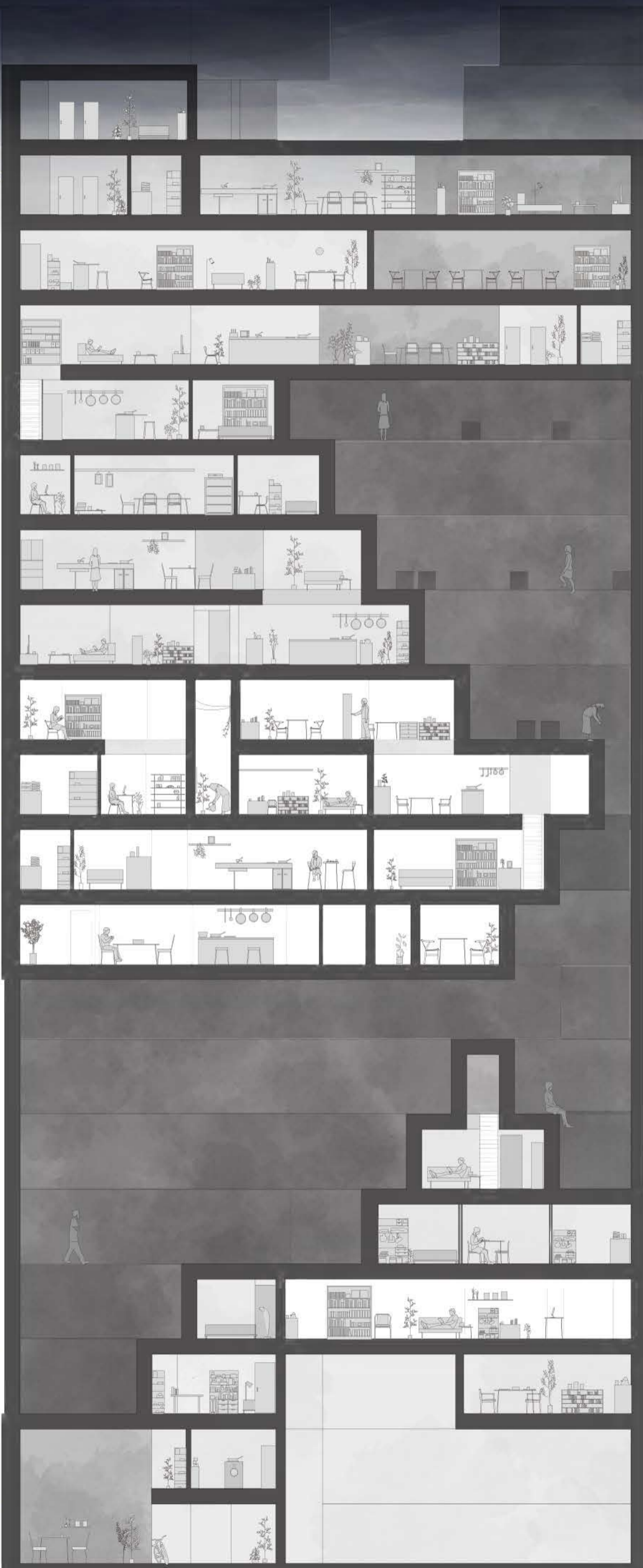
目の前に大きなマンションがあったり、東西がビルと隣接しているため、プライバシーを守るために立面に大きな開口を備えることを避けた。その代わりに外部に繋がる道に対して大きな開口を開けることで生活を感じられる道になる。

5 立面計画



6 平面計画





メゾネット型の住戸



内面を見つめる洞窟



洞窟と住戸が表裏で存在する



寝室にある小さな穴から洞窟に入る



53,000

2,500

1 2

(m)